

令和８年９月２５日　社会福祉法人こどものいえ　双葉こども園（57−2818）副園長　岩﨑　愛実

新年度が始まってから、早半年。あっという間にもう１０月ですね。気持ち良い秋晴れの下、伸び伸びと身体を動かすことを楽しんでいる子ども達。ますます秋の深まりを感じています。一方で、朝夕の寒暖差から体調を崩しやすい時期でもあります。十分な休息とたくさん栄養を摂りながら体調を整えて健康に過ごしていきましょう。

【保育目標】

- ●季節の移り変わりを感じ、身近な秋の自然に触れたり、発見を喜んだりしながら親しみを持って過ごす
- ●戸外でのびのびと体を動かし、健康に過ごす
- ●秋の果物や野菜について知り、親しみを持って食事を楽しむ

10がつのうた
・やきいもぐーちーぱー
・むしのこえ
・（わらべうた）
ちゃちゃつぼちゃつぼ

【10月の予定】※年間行事予定と不審者訓練・避難訓練日程が変更になっています。

１日（木）　祖父母の集い（３歳児）	１４日（水）　誕生会
身体測定（２．１．０歳児）	１６日（金）　不審者訓練
内科検診（１４時３０分～）	２１日（水）　キッズハウスひろば（未就園児）
２日（金）　ふたばおはなしひろば	ファミリーデー（０．１歳児）
身体測定（５．４．３歳児）	２２日（木）　お茶会ごっこ（５歳児）
６日（火）　親子遠足（５歳児）	２３日（金）　避難訓練
７日（水）　祖父母の集い（４歳児）	２７日（火）　歯科検診（９時３０分～）
９日（金）　交通安全指導	２８日（水）　ミュージック・ケア（３歳児）
１３日（火）　公開保育【５歳児】（教育委員会、小学校対象）	３０日（金）　布団持ち帰り

【11月の主な予定】
４日（水）キッズハウスひろば（未就園児対象）ミュージック・ケア
１３日（金）生活発表会（２歳児以上参加）、１８日（水）誕生会

今月のわらべうた
「ちゃちゃつぼ　ちゃつぼ」

ちゃちゃつぼ　ちゃつぼ
ちゃつぼにゃ　ふたが　ない
そこを　とって　ふたにしよ

～ぜひ、ご家庭でもお子さんと触れ合い、歌ってみてください～

新しいお友だちを紹介します

すみれ組（２歳児）　齋藤（さいとう）　花風（かふう）　さん

よろしくお願いします　（１０月７日入園）

【お知らせとお願い】
★10月1日（木）14時30分～内科検診、10月27日（木）９時３０分～歯科検診があります。
お子さんが検診を受けられますようなるべくお休みしないようにお願い致します。

双葉こども園、園だより「ふたば」では、毎月の行事、歌やお知らせの他に子どもたちの今、体験している活動の様子を発信しています。今月は５歳児が企画した「ふたばまつり」の活動の様子です。

８月２８日（金）に“ふたばまつり”が開催されました。はじめは、ゆり組（５歳児）の子どもたちから「みんなが楽しめる”ふたばまつり”をやってみたい」という提案が聞かれ、自分たちで役割を決め、約１ヵ月間を通して、祭りの屋台や看板、商品作りと準備を進めていきました。準備を進めていく中で、ひまわり組（４歳児）も大好きな鬼太鼓と神輿を作りたいと製作し、祭りを盛り上げました。
祭り当日は、ひまわり組の子どもたちによる神輿担ぎと鬼太鼓で“ふたばまつり”のはじまりを知らせ、ゆり組の子どもたちは屋台全園児のお客さんとして招きました。子どもたちは、園内のお祭りの雰囲気に嬉しそうな様子で参加していました。そんな“ふたばまつり”の様子を紹介します。

～ひまわり組による神輿担ぎ・鬼太鼓～
「ワッショイ！ワッショイ！」




～銀行屋～
「こちらで、お金を渡しますよ」



～チョコバナナ屋～
「何味にしますか？」
「チョコ味にしようか



～たこ焼き屋～
「いらっしゃいませ！」
「熱々のたこ焼きはいかがですか」




「たこ焼きください」

「かき氷おいしいよ！」



「チョコバナナも買ったよ」

～わたあめ屋～
「小さいサイズのわたあめどうぞ」



～お祭り風・給食メニュー～
・りんごジュース　・からあげ　・やきそば





「りんごジュースどうぞ！」
「順番を決めて、小さい子に渡してあげよう」





「からあげ、落とさないように気をつけてね」

～おもちゃ屋～
「センサリーボトルにしますか？」
「お支払いはペイペイですね」





「ふたばまつりの会場で、みんなで美味しく食べました！」

令和８年９月25日

園長コラム 保育の質を支える「学び続ける保育者」

― 振り返り、語り合い、つながることから次の保育へ ―　　園長 松野亜希子

双葉こども園では職員が学ぶ時間も大切にしています。子どもたちの心を育てるために保育者は学び続けています。今回は双葉こども園で保育者が資質向上のための学びをどのように行っているかを記事にしてみました。

① 保育のリフレクション研究会「保育のふりかえり」



保育の質を高めていくためには、日々の保育を丁寧に振り返り、自分たちの実践を見つめ直すことが大切です。双葉こども園では京都女子大学 村井尚子先生、大妻女子大学 坂田哲人先生、かほるこども園（山梨）、星の子保育園（滋賀）、かほる保育園（世田谷）、羽茂こども園（佐渡）と共に保育におけるリフレクション研究を実施しています。

今回のリフレクション研究会 IN 佐渡（8月 20 日・21 日）では、1 日目を羽茂こども園、2 日目を双葉こども園で行い、他県の園長先生、保育教諭の皆さんとも一緒に、現場で感じている課題や子どもの姿について語り合いました。

リフレクションでは、**「あのとき、子どもは何を考えていたのだろう」「自分はなぜそのように感じたのだろう」「あの場面で、別の関わり方はあっただろうか」と、一つの出来事をさまざまな角度から振り返ります。**その場では何気なく過ぎていった子どもの姿も、改めて考えてみると、その行動の背景にある思いや育ちが見えてくることがあります。

また、普段の保育の中で感じている「ちょっと困っていること」や「どうしたらよいか迷っていること」も、それぞれが持ち寄って話し合いました。同じような悩みを抱えていることが分かったり、他の保育者が実際に行っている工夫や考え方を聞いたりすることで、「自分だけが悩んでいるわけではない」と感じることもできます。

そして、自分では当たり前だと思っていた関わりについて、他の保育者から「それはとても大切なことだと思う」と認めてもらうことで、自分の保育への自信につながることもあります。一方で、話し合う中で「ここはもう少し変えてみたい」「次はこんなことを試してみよう」と、自分自身の改善したい点に気づくこともあります。

大切なのは、振り返りを単なる反省で終わらせないこと。自分の保育の良さを確認すると同時に、これから取り組みたいことを見つけ、次の保育につなげていくことです。一人で考えていると答えが見つからないことも、仲間に話すことで新しい視点が生まれます。保育者同士が悩みや実践を共有し、互いに学び合うことそのものが、保育者の資質向上につながっていくのだと感じています。

園と小学校をつなぐ、もう一つの学び

② 新潟県架け橋センター訪問研修会

二宮小学校の先生方とともに、新潟県架け橋センターの訪問研修会を実施しました。

午前は双葉こども園の５歳児の保育を参観、
午後は講師に新潟県架け橋センターの髙橋淳先生をお招きし、小学校の先生方と一緒に研修を受け、グループワークを行いました。



保育参観では５歳児保育教諭の子どもたちへの声かけ、答えを教えすぎず考える力を引き出す方法、子どもが自由に選択できる園の環境設定など、架け橋コーディネーターの髙橋先生よりたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

二宮小学校の先生方とのグループワークでは、こども園から小学校へ進む子どもたちの気持ちを出発点に、生活の中にあるさまざまな「違い」について考えました。**トイレなどの物理的な環境の変化、生活習慣、時間の過ごし方、持ち物、ルールや集団での約束事など、子どもにとっては一つ一つが大きな変化です。**



園では当たり前だと思っていたことが、小学校の先生にとっては「なぜそうしているの？」となり、反対に小学校では当然と思っていることが、園の側からすると「子どもたちはどう感じるのだろう？」となります。お互いの「謎」を一つずつ出し合い、子どもの立場から考えていくことで、「なるほど、そういうことだったのか」という驚きと納得が生まれました。

今回の研修で印象的だったのは、**園と小学校がそれぞれの立場から子どもを見ているからこそ、気づけることがあるということです。**小学校の先生方に実際の園での子どもの姿を見ていただくこと、そして園の職員が小学校での生活や考え方を知ること。その両方があってこそ、子どもの育ちを途切れさせずにつないでいくことができます。

「架け橋」という言葉から、５歳児から小学校への移行をイメージしがちですが、大切なのは就学直前だけを考えることではありません。子どもたちがこれまで園で積み重ねてきた経験や育ちが、小学校でどのようにつながっていくのかを、園と小学校の大人が一緒に考えていくことが大切だと考えています。

保育者同士、そして園と小学校が、それぞれの「当たり前」を持ち寄り、子どもの姿について語り合う。そんな関係をこれからも大切にしながら、子どもの育ちや学びの連続性について、小学校との連携を深めていきたいと思います。